



全国高校サッカー選手権大会

今年もいよいよ全国高校サッカー選手権大会の季節がやってきました!!冬の高校サッカーは1917年に始まり今年で第88回目を迎える伝統ある大会です。多くの選手達が選手権大会出場という夢に向かって毎日頑張ってきました。一度は憧れた国立の舞台。そして全国制覇という夢。みんなと笑って、時には上手いかず悔しくて泣いて、毎日遅くまで残ったグラウンド。それぞれの思いが高校サッカーにはあると思います。引退しみんなはバラバラになるけれど、大学サッカーを通じて今度はライバルとして競い合い時には励まし合い、夢へ向かってそれぞれ頑張っています★

さて、関西では今年も熱い地区予選が開催されました。



(写真:週刊サッカーダイジェストより)

☆大阪府結果

決勝戦▼関西第一高校 (3-2) 金光大阪高校

私立関西第一高校が10年ぶり3回目の選手権出場を決めました。

☆兵庫県結果

決勝戦▼科学技術高校 (4-3) 滝川第二高校

市立科学技術高校が2年ぶり2回目の選手権出場を決めました。

☆滋賀県結果

決勝戦▼野洲高校 (4-1) 守山高校

県立野洲高校が5年連続6回目の選手権出場を決めました。

☆和歌山県結果

決勝戦▼近代和歌山高校 (1-0) 和歌山北高校

私立近代和歌山高校が3年連続7回目の選手権出場を決めました。

☆奈良県結果

決勝戦▼一条高校 (5-0) 奈良育英高校

市立一条高校が2年連続5回目の選手権出場を決めました。

☆京都府では12月5日に

西京極総合運動公園陸上競技場兼球技場にて

決勝戦 12時より

久御山高校 対 立命館宇治の試合が行われます。

今回は今年の選手権出場高校出身で現在、関西の大学サッカーリーグで活躍している方々をご紹介します★

大阪代表▼関西第一高校出身選手

辻井 雄佑 MF 3年 (関西大学)

奥田 裕士 MF 3年 (関西大学)

和歌山代表▼近畿大学附属和歌山高校出身選手

小門 勇登 GK 4年 (大阪教育大学)

兵庫代表▼神戸科学技術高校出身選手

須ノ又 諭 FW 2年 (桃山学院大学)

朴 斗翼 DF 1年 (桃山学院大学)

奈良県代表▼一条高校出身選手

己浪 学 GK 4年 (立命館大学)

徳村 真ノ介 MF 3年 (同志社大学)

滋賀県代表▼野洲高校出身選手

楠神 順平 MF 4年 (同志社大学)

金本 竜市 MF 4年 (京都産業大学)

中武 真哉 FW 3年 (京都産業大学)

荒堀 謙次 MF 3年 (同志社大学)

田中 雄大 DF 3年 (関西大学)

内野 貴志 DF 3年 (びわこ成蹊スポーツ大学)

村田 和哉 MF 3年 (大阪体育大学)

坂本 一輝 FW 1年 (立命館大学)

松永 俊吾 MF 1年 (京都産業大学)

端山 亮平 DF 1年 (びわこ成蹊スポーツ大学)

西口 諒 DF 1年 (京都産業大学)

みなさん後輩に負けないくらい頑張っています。

そして高校サッカーといえば…そう♪テーマソング(^-^)/

テーマソングは高校サッカーには欠かせません!!みなさんはテーマソングについてご存知ですか？

第 84 回(2005 年度):「*Starting Line*」／コブクロ

第 85 回(2006 年度):「*Start to 0(Love)*」／絢香

第 86 回(2007 年度):「*Remember*」／RIP SLYME with MONGOL800

第 87 回(2008 年度):「*心の花を咲かせよう*」／いきものがかり

第 88 回(2009 年度):「*明日へ*」／FUNKY MONKEY BABYS←今年のテーマソング◎

どの曲の歌詞もとてもいいです!!是非歌詞にも注目して聴いてください♪

そして!!今回は高校サッカー、大学サッカー、学連に関わってきた2人の方に インタビューをしました★

● 松尾 元太さん ポジション DF (23) 野洲高校→大阪体育大学→名古屋グランパスエイト (現)

Q: 高校サッカーから学んだ事はなんですか？

A: 結果を残すという事の大切さを学びました。高校サッカーに熱く燃える、サッカー少年の皆が「全国大会出場!!」や「全国制覇」という目標を抱くものである。そして、3年間、仲間とともに日々の練習に励むものです。しかし、実際にはその目標を達成し、結果を残すことができるのは、ほんの一握りの選手である。決して結果を残す事が全てではないことは確かです。また、仲間やライバルと切磋琢磨し、汗水を流した3年間は無駄なものではなく、この3年間からも学ぶ事は多い。だが、その3年間で目標を達成し、高校生活で大きな結果を残す事はその選手にとって大切な経験である。なぜなら、目標を達成すること、結果を残す事は自分を大きく成長させてくれるものであり、また自分自身に自信を持つ事ができるようになる。そして、次のステップや次なる大きな目標へ向かうための原動力ともなるからです。

Q: それは大学サッカーでどのように活かされましたか？

A: 私は、高校時代に全国の舞台を踏む事ができませんでした。だから、大学サッカーでは、結果を残したいという強い思いをもち取り組みました。「結果(目標を達成する)を残すためには、どうすればいいのか」ということを真剣に考え、単に目標を追いかけるのではなく、目標から逆算し、自らの課題を見つけ、自らそれを解決していくという姿勢を大切にしました。そのような姿勢で4年間続ける事で、総理大臣優勝という大きな結果を残す事ができたと強く感じています。また、自分一人ではなく、チームメイトも共に目標を共有することの大切さを学びました。サッカーのゲームでも、ゴールから逆算したプレーが求められるように、トレーニングや日頃の生活においても、目標から逆算して考えていく事が大切なのだと思います。これは、サッカーだけではなく、多くの事に共通することだと思います。このような考え方を持つ事ができたのは、高校時代に「結果を残す」ことの大切さを学んだからだと思っています。

単に目標を追いかけるのではなく、目標から逆算し、自らの課題を見つけ、自らそれを解決していくという姿勢を大切にしました。

Q: 高校サッカーとは貴方にとってどんな存在ですか？

A: 多くの事を学んだ、宝の3年間。

Q: 最後に後輩へ一言お願いします☆

A: 人生一度きり!!自分の名前を歴史に刻もう!!

● 左近上 卓さん ポジションGK (22) 野洲高校→愛知学院大学サッカー部/東海学生サッカー連盟 幹事長 (現4回生)

Q: 選手権とは貴方にとってどんな存在でしたか?

A: サッカーを始めたときからの憧れの大会で夢の舞台だった! そんな大会で自分達が信じてきたサッカースタイルで全国制覇 できたことは最高に嬉しかったし、一生の誇り。

Q: 高校サッカーから学んだ事はなんですか?

A: どんな逆境にたっても必ず乗り越えられる精神力。私の場合怪我との戦いでしたが最後まで諦めず練習に取り組みメンバー として日本一になれたことがこれからの人生での自信になりました。

Q: 学連に入ろうと思ったきっかけ、また、幹事長になろうと思ったきっかけは何ですか?

A: 選手だけでなくサッカーをいろいろな角度から見て、サッカーを感じたかったから! また、東海のサッカーを支えていきたいとおもったからです。

Q: 学連として“支える”という立場からどのような事を学びましたか?

A: 今まで何気なく大会に参加したりサッカーをしたりしていたが、ガクレンなどの裏方のものすごく苦勞のおかげでサッカーが成り立っているとわかった。サッカーは多くの人が携わっていて、どれも必要不可欠だということを実感しました。

Q: 大学サッカーと高校サッカーの違いは何だと思いますか?

A: 大学生は自由な時間が多い分オフザピッチの自己管理がしっかりできる人が良い選手として評価されると思います。また、私がそうだったように、サッカーへの考え方の幅を広げられるのは大学サッカーの魅力。

学連に入ろうと思ったのは、選手だけでなくサッカーをいろいろな角度から見て、サッカーを感じたかったから! また、東海のサッカーを支えていきたいとおもったからです。

最後に・・・

インタビューにお応えしていただき、本当にありがとうございました。関西学生サッカーリーグでは、ここではご紹介出来なかったものの、多くの選手達が活躍しています。そして皆さんも一度は国立という舞台に憧れ、日々練習に励んできました。高校サッカーは夢であり、そして夢へのステップアップではないでしょうか? 高校時代に培ったことを忘れず、日々前進!!!そしてこれから大学サッカーを経験する若き勇者達にも期待ですね(*´`*) 夢に向かって頑張るみなさんたちを 精一杯応援しましょう!!!! *Dream comes true!!!*